

第5回宝塚市議会意見交換会記録 第1部

※ この記録は、市民発言者と議員の意見交換の様子について、書記として参加した議員が記録したものを元に作成しています。

テーマ「危機管理について、観光行政について」

① 非常時用の水道と水源問題として、市独自・主体的な体制の確保を！

1 市独自水源（自己保有水源）の問題について

市民 渇水対策上、阪神水道企業団からの受水は、琵琶湖・淀川を水源としており、原発の影響や大災害発生時は寸断の可能性もある。淀川は水量豊かにみえるが、過去には取水制限や電力使用制限もあった。はたして広域水道として盤石といえるか。自己水源を手放すことは絶対にしないでいただきたい。

議員 自己水源の確保は大切な問題であるが、自己水源だけで持ちこたえるのは難しい。今までは「自己水源7：県営水道3」の割合でやってきたが一庫ダムは平成14年の渇水時には最大約40%の取水制限を経験している。川下川ダムは独自で造ったが、供給能力が低い。武庫川両岸に大きな井戸があるが、深井戸・浅井戸も水量は減っている。有事にはリスク分散が必要で、武庫川水系、猪名川水系以外からの取水が必要。将来は「自己水源3：県営水道3：阪神水道3」体制にするとの説明には説得力があり、議会も同意した。

市民 そのような将来像は初めて聞いたので、安堵した。

2 宝塚市営水道の「あり方」態勢について

市民 業務の民間委託が進められようとしているが、水道は市の基幹産業であり、民間委託では利益追求に走らないか。世界の200カ所で再公営化の動きもあり民営化は不可。突発的な事故に責任を持った対応ができるのか。設備の操作に職員が不慣れでは困る。市民に安定的に水を供給する使命がある。災害対策・緊急態勢・マンパワーの確保についての記述が、宝塚市水道ビジョン2025には無いのでは。有事に行政のマンパワー無しで対応できるのか。

議員 個人的な意見だが、民間委託とは打ち出されていない。民間委託にすべきではない。水は命をつなぐ大切なもの。阪神淡路大震災時、公的責任で給水をした経験もある。市は責任をもって水を確保していくのが大事。琵琶湖の水を取水する

というが、原発から100キロ圏内の水源には疑問。自分たちの水、地下水を守っていききたい。

議員 民間委託ありきではないが、インフラをどう守るのかだ。水道料金が高いといわれるが、長らく値上げをしておらず、水道は公営企業として財政的にもたなくなっている。財政健全化のため、窓口業務や検針業務など、できるところはすでに民間委託している。非常時と日常業務はバランスの問題。もうひとつは、職員の半数が市外在住のため、災害時の対応に問題がある。効率の悪さは水道料金に跳ね返ってくる。

市民 「受益者負担と言って、最終的に市民によろしく」ではお粗末だ。経営とマンパワーに目を向けて、議員には是非追求をお願いしたい。

3 「緊急用の水確保について」

市民 緊急用の水の確保がビジョンに掲げられていない。市立学校に井戸を掘る話もあるが、掘るだけでなく使って初めて水源として役に立つ。植木の散水、トイレ、プールに利用する具体的な考えは。日常の維持管理体制はどうするのか。

議員 安倉小学校に第一号の井戸が掘られたが、井戸水は飲用に適さず、緊急時のトイレ用として、安全性を考えて対策をとっているが、日常的利用は考えていない。1つの浅井戸を掘るのに30日間、300万円かかるが、飲み水用にはならない上、学校の休校時にしか掘れないので、井戸を掘ること自体のハードルが高い。また、阪神淡路大震災後、耐震性貯水槽は市内8カ所に設置され、日常は水を流しているのが安全だが、100m³1基の設置に6～7千万円かかる。いろんな手だてもあるのはいいが、広げ過ぎて管理できないのではダメなので、議会も注意してみていく。

市民 千刈ダムは宝塚にも近く、神戸市との協定で活用できないか。

② 観光文化都市の創生を目指そう

市民 現在、市に文化会館（市民会館）がない。近隣で文化会館をもっていないのは宝塚市だけである。今行っているシティプロモーションも中身がない。文化会館があれば、NHKのど自慢などを開催し、全国で放送されると、市民の交流は広がっていき、マスコミにも注目される。歌手のコンサートもできるこのような場

があれば、ネームバリューで人が集まってくる。市民のモチベーションも上がるのではないか。中央公民館よりも先に、文化会館の建築を急ぐべきだった。

議員 市は文化会館を建築しない方針が出ていて、市民ホール予定地も売却してしまい、中心市街地の景観を壊してしまった。公共用地として置いておくべきだった。ガーデンフィールズ跡地に、創作活動の場として文化芸術施設をつくらうとしているが、2000人規模の施設をつくる予定はない。要望はとて多いが、近隣の西宮市には県立芸術文化センターのホールもある。またホールの維持管理費がかかるのも問題であり、現実の判断としてつぐらない。規模は大きくないが、文化芸術施設をどう活用していくかが第一である。

市民 武庫川と山の景観は自慢できるもの。宝来橋から武庫川新橋までの武庫川兩岸に7～8kmに桜・紅葉・銀杏の回廊を創出し、花の道にしてはどうか。関西の花見どころになるのでは。回廊と武田尾の桜の園をつなげていく。大きな回廊をつくりたい。狭山市の狭山池の周囲が桜の道になっていて素晴らしい。行こうと思う場所を探す人が多くいる。行こうと思う場所をつくらなければならない。

議員 宝塚には観光コンテンツがばらばらに存在する。武庫川の有効利用として、先の1万人のラインダンスでのギネス認定なども活性化に役立つが、何に力を入れるべきか。

議員 武庫川の管理は県が行っている。ふるさと桜づつみ回廊事業については、兵庫県事業として瀬戸内海から日本海へ、武庫川から円山川に桜を植えるため、苗木を無償提供してくれるが、武庫川河川管理の県の意見としては、高水敷には増水の際障害物となる桜木は認められないと以前確認している。宝塚大橋もガーデンブリッジとして素敵な場所であるが噴水の復活も無く生かされていない。

議員 桜などの移植による回遊は素敵だが、土手がないので、難しい。それにこだわらなければ何かつくれそう。現状あるものをつないでいけば、同種の苗木を植えて連続性の演出は出来ると思う。回遊性のスポットになるところが、メンテナンスできずに壊れていっているのは残念に思う。

市民 観光の売り物として、六甲山をどのように捉えているか。六甲山を市はなぜ活用しないのか。六甲山の東の端は宝塚。譲葉山・岩倉山・岩原山が宝塚の六甲山。登ってみたが、山頂は木が茂って景色が見えない。わずかに、岩倉山だけが見えた。六甲山の活用策として、宝塚ー六甲山をロープウェイでつなぎたい。議員も

ヘリコプターで空中散歩してほしい。六甲山を空から見てほしい。大阪平野を見渡す景色はとても素晴らしい。井戸知事も六甲山の再開発の必要があると言っている。阪急阪神の社長は、三宮の開発に力を入れている。鉄道事業を発展するためにも阪急は宝塚を切っても切れない。これからの人口減少は避けられない。それゆえに、県・阪急・宝塚市で今後を検討し、神戸市から宝塚市にかけての回遊をつくりインバウンド対策を考えることを提案したい。

議員 長尾山は市民が管理している。もとは県の土地を開発して、山を身近なものにしている。外来種を伐採して、市民が楽しんでいる。最明寺滝から中山、そして清荒神を歩くツアーもある。清荒神は火の神様で、多くの人や外国人が訪れて賑わうようになってきた。このように、長尾山山系には、今までに県市の支援による里山整備、ハイキングコース整備が行われてそれなりに色々力を入れてきた。それに比べると、六甲山系は力を入れていないので、夢のある意見である。六甲山系を縦走して降りてきても、何もなくて、ここ数年、足湯をつくりおもてなしをしているが手薄。林業に関する部分も、手薄で、手入れが必要。桜守の会が頑張っているが、開発がされている状態ではない。

議員 六甲山ロープウェイは夢のある話だが、県事業のグリーンベルト構想として土地買収を進めているものの、市域内は地図混乱で測量が進まない現状がある。六甲山系の所有者がわからないと何もできない。

市民 姉妹都市提携を増やし、例えば小池都知事との縁を生かして東京と姉妹都市提携をしてはどうか。東宝は東京宝塚からきている。また、イギリスのリーズ市はウィルキンソンが生まれたところで、ウィルキンソン炭酸ホテルをつくるなどを考えてもよい。宝塚に観光にやって来るのでは。

「清く正しく美しく」の標語をつけて宝塚市を世界に向けて発信してはどうか。

皇帝ダリアをもっと評価し、新たに市花にすべきではないか。

手塚治虫記念館の前の交差点には、信号と横断歩道が足りない。

市内をくまなく歩いてみれば、様々なことに気が付く。市職員や議員には、宝塚学検定を是非受けてほしい。

宝塚市に縁のある人や宝塚市に住んでいる人材を活用してほしい。宝塚歌劇OGなど。